

大牟田大水害

気候変動と自然の力



NHK抜粋 (大牟田上空写真)

7月6日、突然襲ってきた集中豪雨。この大牟田でも、午後からの激しい雨で、公共一般分會定例会は中断しました。

分會員が同じ分會の仲間を自宅へ送る時に、大牟田川の潮の満ち方と雨量で「これは

危険！」と判断され、組合に戻ってこられました。

この日、じん肺の休業補償8号用紙が出来上がる事を事前に受けており、当該医療機関に8号用紙を取りに行きましたが、「行きはよいよい帰りは怖い」、医療機関から大牟田労働基準監督署までの道のりで道路が冠水し、迂回・迂回・迂回を重ねて労働基準監督署へたどり着きました。

しかし、労働基準監督署から組合までの帰路で道路冠水は凄まじい事になっていました。

大牟田支部の車両がエンコしてはいけないと思ひ、アクセルをブンブン吹かしながら迂回・迂回・迂回して支部に帰りつきました。

又、民間分會員のご家族も、仕事からの帰宅途中で、大牟田市の中心を通る国道208号線が冠水し、身動きが取れず組合に避難してこられました。



組合宅のそばを流れる大牟田川 (河川氾濫の痕)

この方が帰られない事で、書記長の帰宅路も絶たれ、3人で組合建屋で一晩明かす事になりました。

同日21時頃、書記長も夕食を買い出しに行くついでに国道やわき道を見ってきましたが、行くところとこエンコして放つておかれていた車両が至る所にあり交通のマヒ状態でもありました。

翌朝7日、民間分會員のご家族は意を決して帰宅されましたが、帰宅と同時に無事に帰られた事を電話で知らせてくれました。

大牟田川沿いにお住いの組合員宅へ家屋内の状況を見にいくと、床上浸水し畳はモロに濡れ、家財道具も濡れていました。

一先ずその仲間には、組合建屋で過ごして貰うこととしました。

この日の夜、別の組合員から電話があり、被災した組合員の事を話しました。

その組合員から「熊本大震災の時は、市の公営住宅に一時避難した事例がある」事を告げられ、頭の中が八方ふさがりだった私の頭の思考を再

び蘇らせてくれました。早速、市の当該部署に被災した組合員らと一緒に赴き、今回の被災状況を話しました。

当該部署からいくつものアドバイスを貰い、公営住宅への一時避難の手続きと同時に、元々市が公募していた市営住宅への申し込みを行った。

ここから大牟田支部の重鎮たちの動きが活発になった。

平川支部執行委員長を



組合員宅の浸水状況



組合員家族宅の床上浸水線

先頭に、高齢の組合員らが被災した組合員宅の財道具の選別と処分作業に没頭した。

そんな中、中央本部や福岡県本部、全国各地の仲間たちから大牟田の被災状況を心配する電話が殺到した。

これに触発され、支部の全組合員宅へ安否確認の連絡を入れたら、組合員の親御さん宅が床上浸水し市の緊急指定避難所

へ避難している事や、自家用車が水に浸かり修理は不可能となった事など被害の状況が次々に伝わってきました。

日本共産党大牟田市議会議員からもアドバ

イスを受けるなどして、公的な諸手続きをしながら、組合員や家族宅の荷出し作業に入った。

私たちが建交労大牟田支部だけの力では今回の件について解決していなかった



ように思えます。

同じ民主団体や被災者宅の地域住民らの手も借り被災者支援を継続中です。

再び、新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中、ボランティアらができるだけ密にならないように配慮する必要があります。

しかし、SNSを用いた非公式なグループがあり

り、発信者は新型コロナウイルスの事は構いなく募るばかりか、責任は一切負わないと言う無責任極まりない事態でもあります。このボランティア団体らしき投稿を援護する保守系市議会議員もいて危なかしい事でもあります。

日本共産党大牟田地区員会が発起して大牟田社保協加盟団体を集め、

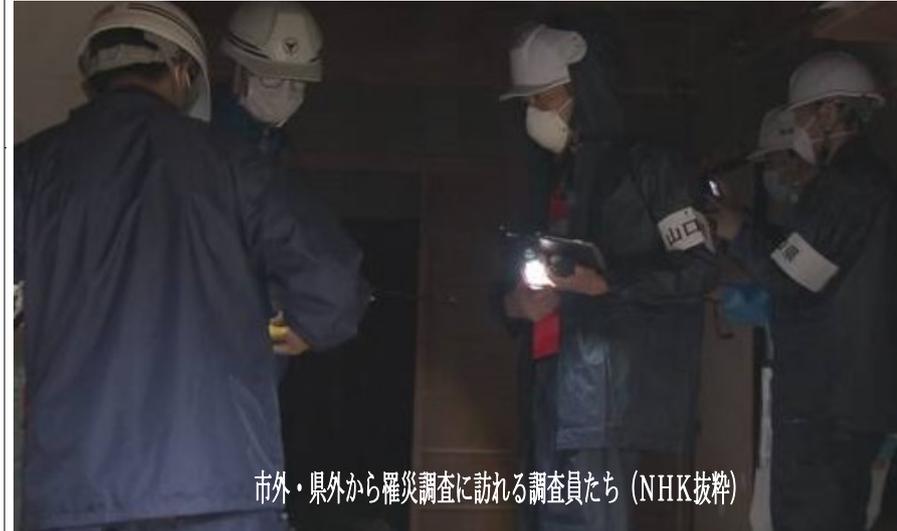
「2020年7月豪雨災害救援共同センター」が結成されましたが、各団体の中でも、被災者の心的ストレスについて唯一言及したのが建交労でした。

これから猛烈な夏と、新型コロナウイルス第2派、被災者をいち早く再起させる為の支援と、コロナウイルス感染を絶対に起

こさせない非常に苦しい任務が待っています。

ニュース報道で、熊本県北地域の住民が「熊本大震災で他県ボランティアから助けてもらった、今度はお返しする番です」。

居住地は違えど「お互い様の法則」がこんなところでも見受けられました。



市外・県外から罹災調査に訪れる調査員たち (NHK抜粋)

居住地は違えど「お互い様の法則」がこんなところでも見受けられました。

全国の仲間・関係方々へのお礼

かつて経験のない大災害

7月6日(月) 午後から降り出した雨は、次第に激しさを増し、15時から16時の降雨量は59ミリの途切れることのない雨音は

死傷者2名、床上浸水1079戸、床下浸水1719戸、道路損壊113か所、埋没9か所の溢水9か所、がけ崩れ96か所、地滑り3か所。市内全域・水田が冠水、ノリ漁船沈没、事業所・店舗 浸水など、被害は市内全域にわたる。退社時間とも重なり、水没した車両が方々に放置されていた。

激励の電話・手伝うこととはないかなど、多くの励ましの言葉をいただいた。県本部・中央本部は、さっそく募金を呼びかけ、救済の取り組みを始めている。県本部のある仲間は、困ったときはお互い様である。組合もびつくりするほどの多額の募金を寄せてくれました。本当にありがたいことでした。

公共一般分会の仲間は、会議は済んだもの、帰るに帰れない状態が続いた。もう限界と車で帰りかかったが、途中が冠水で家に近づけない。大牟田川、川べりの仲間は、組合に避難することになったが、大正解であった。

組合は、組合員の被害実態調査と当面の生活を確保するため、組合事務所を避難場所として提供し、被害者家屋の整理、罹災証明申請、緊急避難公営住宅申請など奔走した。

組合員さんからは、やはり、困ったときは組合が一番頼りになると感謝されています。 やつと梅雨は明けましたが、これからは猛暑、コロナの第2波感染の広がりと合わせて、まだまだ、苦難は続きますが、弱音は吐けません。政権与党の無策。無責任体制を打ち破るためにも組合はもっと発展しなければと考えています。皆さんもくれぐれも体に気を付けて夏を乗り切ってください。

6日は、家に帰れず組合に寝泊まりした者が3名、2時間かけて

折から、テレビ報道を見た東京の仲間・佐賀の仲間・大分の仲間などから、心配の電話・

(大牟田支部執行委員長・平川 道治)

<行事予定>

8月

- 3日(月) 13:00~公共一般分会定例会 (新型コロナで中止)
- 7日(金) 10:00~労職分会定例会 (新型コロナで中止)
- 13:30~なくせじん肺キャラバン実行委員会第2回ZOOM会議
- 13日(木) ~16日(日) 盆休み
- 18日(火) 10:30~福岡県本部執行委員会
- 21日(金) 18:00~大牟田社会保障推進協議会総会
- 28日(金) 14:00~建設アスベスト神奈川2陣判決・連帯集会博多バスターミナル
- 29日(土) ~30日(日) 建交労全国大会・群馬
- 30日(日) 13:30~福岡県労連第31回定期大会

9月

- 4日(金) 10:00~労職分会定例会
- 7日(月) 13:00~公共一般分会定例会
- 8日(火) ~9日(水) 全国労職部会総会 (予定)
- 13日(日) 10:00~福岡県本部定期大会
- 24日(木) 14:00~九州建設アスベスト第2陣訴訟第8回期日

健康相談会

(7月末時点)

- 石綿健康管理手帳... 4名
- じん肺管理区分4... 1名
- じん肺管理区分2... 2名
- じん肺合併症決定... 2名
- 合併症申請予定... 3名
- 遺族補償決定... 1名
- C0患者遺族補償開示請求... 1名
- 石綿労災申請... 1名
- 石綿健康管理手帳申請... 1名